

第83回全国高校サッカー選手権大会

第83回全国高校サッカー選手権大会が2004年12月30日から2005年1月10日にわたって行われた。その中に、来季駒大に加入予定の選手4人の姿があった。志田亮輔、島田祐輝(共に西武台/埼玉)、山崎良介(盛岡商業/岩手)、山下真太郎(鹿児島実業/鹿児島)の5人である。志田と島田率いる西武台は、0-2で藤枝東に破れ2回戦敗退。山崎率いる盛岡商業は順調に駒を進め、準々決勝で昨年の王者・国見との対戦に。国見相手に2-3と奮闘するも準々決勝で姿を消した。そして、鹿児島実業は2回戦・修徳に山下がハットトリックを決めるなどチームの勝利に大きく貢献し決勝へ。迎えた決勝戦ではPK(4-2)で市立船橋を下し、9年ぶり2度目の栄光を手にした。来季、駒大に加入する彼らの活躍に期待が高まる。

写真●野澤俊介、川崎篤彦 文●伊藤優香



左から島田、山崎、志田

決勝

鹿児島実業0-0市立船橋
(PK4-2)

初の単独優勝を狙う鹿実は1月10日、聖地・国立で決勝の舞台を迎えた。ここまで1失点と、岩下を中心とした守備の完成度が高い鹿実。しかし、対する市船も安定した守備を売りとし、試合は接戦が予想された。

序盤、鹿実が両サイドハーフの選手を中心に攻撃を仕掛け幾度とチャンスをつかむ。しかし、市船の堅い守りになかなかシュートを打つことが出来ない。そんな状態が続く鹿実だが22分、岩下の蹴るFKに山下がシュート。ゴールには至らなかったが、この決定機を皮切りに攻撃の勢いを増す鹿実。37分には上村から受けたボールを山下が中央ヘクロス。坪内がシュートを放つがこどもも1点には結びつかず、0-0で前半を折り返す。

後半に入っても鹿実の勢いは留まることを知らない。66分、後ろからのパスに山下がトラップしシュート。が、惜しくもゴールはならず。その後も幾度と市船ゴールに迫る鹿実だが、そこには常に市船の堅守が立ち上がりゴールは生まれなかった。試合は10分ハーフ、Vゴール方式の延長戦へ突入するが、ここでも決着は着かずPK戦へ。両チーム2本目までは順調に決めるが、市船が3本目4本目と立て続けに失敗。一方、鹿実も4本とも冷静に決める。悲願の単独優勝を決めた。

最終学年にして高校選手権の頂点に立った山下は、「みんなに勝ち取った優勝。みんなに感謝したい」と優勝の喜びを語った。山下は大会優秀選手にも選ばれ、鹿実の優勝にはなくてはならない存在であった。駒大入学後は熾烈なポジション争いが待っている。大学サッカーの舞台でも、その人並みならぬ才能を存分に発揮してほしい。



鹿実、念願の単独優勝!



2回戦、対修徳戦でハットトリックを決めた山下。その意外性あるパスとシュートで相手DF陣を翻弄した

山下真太郎 (FW) コメント

「(前半から厳しい試合が続いたが)後半は決めるチャンスもあったけど、決められなくてヤバイかなって思いましたけど、あとはディフェンスを信じるしかないんで、信じて前で待っていました。優秀選手に選ばれたのは、みんなのおかげで入れたのでみんなに感謝したいです。得点王は、今日点が取れなくて単独で獲れなかったことが残念です(盛岡の福士らと並んで4得点と今大会トップ)。大学での目標は、まずは試合に出られるように頑張ります」

優勝までの軌跡

[2回戦]
3-0 修徳
得点者=山下3

[3回戦]
1-0 北海
得点者=岩下

[準々決勝]
2-1 多々良
得点者=山下、赤尾

[準決勝]
2-0 国見
得点者=西岡、赤尾

1月10日 14:00 国立霞ヶ丘競技

鹿児島実業	市立船橋
GK⑦片淵洋平(3)	GK①中林洋次(1)
DF③重富朝登(3)	DF③谷津寛治(3)
⑤岩下敬輔(3)	⑤渡邊広大(3)
⑩西岡謙太(2)	②上福元俊哉(2)
MF⑩渡邊辰己(3)	⑦葉袋克己(3)
④三代将平(2)	MF⑤中村勇紀(3)
⑩赤尾 公(2)	⑩小山泰志(1)
⑥上村豊和(3)	(64分)⑩白山智一(2)
⑦坪内佑太郎(2)	⑨壽 透(3)
FW⑨梶 大嗣(2)	⑥鈴木智博(3)
(58分)⑩大脇辰也(3)	FW⑤榎本健太郎(3)
⑩山下真太郎(3)	(91分)⑩磯田将己(2)
(105分)⑩瀧木達矢(3)	⑩森野 徹(2)
	(77分)⑩本山真之(3)

[PK戦]

鹿実	⑤	⑦	⑥	⑩
	1	2	3	4
市船	⑥	⑩	③	⑦